※令和４年度以降入学生用

学校番号	３２６

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	高校数学Ⅰ　新訂版　（実教出版）						
副教材等	高校数学Ⅰ　新訂版　専用　スタディノート（実教出版） ステップノート　数学Ⅰ　新訂版（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

定期的に宿題を出します。継続して復習する習慣を身に付けましょう。

2　学習の到達目標

・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、２次関数、図形と計量およびデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	数学的活動を通して、数と式、集合と論証、２次関数、図形と計量およびデータの分析における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的に捉え、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。	数学の良さを認識し、数学を活用しようする姿勢や、粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする。 問題解決の過程を振り返り考察を深めようとする

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

1	数と式	1　式の計算 2　実数 3　１次不等式	a:乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。 不等式の性質について理解し、１次不等式の解を求めることができる。 b:既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的にとらえたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 c:事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	・確認テスト ・定期考査 ・副読本の取り組み	・確認テスト ・定期考査 ・パフォーマンス課題	・課題の提出状況 ・授業中の取り組み ・副読本の取り組み
	集合と命題	1　集合と論証	a:集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 b:集合の考え方を用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。 c:事象を集合と論証の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	・確認テスト ・定期考査 ・副読本の取り組み	・確認テスト ・定期考査 ・パフォーマンス課題	・課題の提出状況 ・授業中の取り組み ・副読本の取り組み
2	２次関数	1 ２次関数とグラフ 2 ２次関数の値の変化 3 ２次方程式と２次不等式	a:２次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ２次方程式の解と２次関数のグラフとの関係について理解している。 b:２つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決することができる。 c:事象を２次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	・確認テスト ・定期考査 ・副読本の取り組み	・確認テスト ・定期考査 ・パフォーマンス課題	・課題の提出状況 ・授業中の取り組み ・副読本の取り組み

※令和４年度以降入学生用

	三角比	1　三角比 2　三角形への応用	a:鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 b:図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式を導くことができる。 c:事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	・確認テスト ・定期考査 ・副読本の取り組み	・確認テスト ・定期考査 ・パフォーマンス課題	・課題の提出状況 ・授業中の取り組み ・副読本の取り組み
3	データの分析	1　データの分析	a:分散、標準偏差、および相関係数の意味やその用い方を理解している。 b:データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 c:事象をデータの分析の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。	・確認テスト ・定期考査 ・副読本の取り組み	・確認テスト ・定期考査 ・パフォーマンス課題	・課題の提出状況 ・授業中の取り組み ・副読本の取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度